



カトー「四国村」(伝統文化の野外博物館)の運営に注力

高松市の郊外、源平の古戦場としても知られる屋島山麓の緩やかな斜面に公益財団法人四国民家博物館(通称「四国村」)がある。数万本の樹木が生い茂り、鳥のさえずりと水の流れが聞こえる環境に、江戸時代に建てられた民家を中心として約30棟が移築・展示され、約2万点の民具も収集されている。

社「東京東区、高貫してこの博物館を支援する。松本社「高松市、加藤え続いている。英輔社長」の創業者である加藤達雄氏で、同社は今日に至るまで一カトーレックは、現在では日本のほか、東南アジアや中国、メキシコなどでEMS事業を展開しているが、そのルーツは1877年(明治10年)にさかの

は、自動車の増加に着目してカーフェリーを就航させ、さらに加藤汽船でも免許を取得し、陸運業に参入。この汽船の美しさに魅了された。こうして、76年10

は、自動車の増加に着目してカーフェリーを就航させ、さらに加藤汽船でも免許を取得し、陸運業に参入。この汽船の美しさに魅了された。こうして、76年10



加藤 社長



四国村に展示されている旧河野家住宅(国指定重要文化財)

る。高松市で米屋を営んでいた加藤弥太郎氏が、旧高松藩主の松平家から二隻の船を譲り受けて始めた廻漕業だ。大正時代に加藤海運商會となり、戦後は旅客の増大に合わせて加藤汽船が分かれた。若くして加藤汽船の社長となった加藤達雄氏

古民家、伝統産業など展示 「地元との結びつきを大切に」

加藤 社長

を壊す者も出てくる。開設当時の建物は16棟であったが、その後、敷地も約5万平方メートルに拡大し、建物も約30棟に増えた。代表的な建物として、愛媛県しめ小屋(香川県坂出市から移築)や、絞り」と「水景庭園」

る。2棟とも18世紀のも、建築で堂々とした構造を誇り、国指定重要文化財である。産業遺産としての讃岐の砂糖漉の「流れ坂」「染ヶ組」に使用された「砂糖漉」、更に安藤忠雄氏設計の「四国村ギャラ」の「水景庭園」もあ



グローバル展開するカトーレックのEMS事業

田から移築された醤油(しょうゆ)蔵と麹計のエントランス建物(ronics)、そして新たに設ける予定だ。他に、音声ガイドや映像コンテンツの作成、身障者のアクセス改善などを22年4月の「瀬戸内国際芸術祭」の93年、同社は初めて海外工場をインドネシアに開設。「社名変更を機に我が社はMSへの脱皮を果たし、カトーレックは、海外に比重事業は海外に比重

リニユールを進めてC」とは祖業である物流業(Logistics)、電子機器の組み立て(Electronics)、そして四国村を表す文化(Culture)と、音声ガイドや映像コンテンツの作成、身障者のアクセス改善などを22年4月の「瀬戸内国際芸術祭」の93年、同社は初めて海外工場をインドネシアに開設。「社名変更を機に我が社はMSへの脱皮を果たし、カトーレックは、海外に比重事業は海外に比重